

自己実現的性格調査票（I S A C）と 自己実現測度（P O I）との関連について

福 井 康 之

（教育心理学研究室）
（昭和60年10月11日受理）

目 的

Banet, A. G. Jr. (1976) により試作された I S A C (Inventory of Self-Actualizing Characteristics) は、質問紙としての妥当性やその他の必要な統計的検討がなされておらず、日本版として翻案して使用が可能かどうかを検討してきた（福井, 1984, 1985 a）。原型の5項目宛15尺度の形式を変更しないで使用に耐えるよう項目の翻訳を修正することによって、その因子的妥当性を手がかりにして改訂第V版までを作成し、一応の可能性をみだしてきている。第V版についても、なお、検討の余地を残したままであるが、本小論はそれとは別に、この I S A C 第V版と自己実現を測定する測度として使用されている P O I (Personal Orientation Inventory, Shostrom, 1966) とを同時に施行する機会があったので、両者間の関連をみることによって、I S A C が自己実現の測度として妥当であるかをみる資料の一つとして考察することを目的とする。

I S A C 翻訳版では、総得点は大学生群より高齢者群の方が高かったが、項目別にみれば、高齢者群が得点分布で低群と高群の2峰分布を示す項目があり、それらの点を考慮して項目表現を修正して改訂I版を作成し、さらに、因子的妥当性を検討して改訂II版を作成した。改訂II版では中学生、大学生、高齢者群間では、15尺度中9尺度に3群間に順に差がみられ、総得点では中学生群と大学生群間には差がなかったが、この両群と高齢者群との間には有意な差がみられた。このことから、I S A C はかなり長期の人格成熟の差は測定できるが、P O I のように心理療法やインテンシブ・グループへの参加の効果のような短期間で生じる人格変化が測定できるのかという疑問が残った（福井, 1984）。

I S A C 改訂II版によるエンカウンター・グループ参加の効果の測定については、参加の前後では、総得点間では差がなく、尺度2（受容）と尺度13（刺のないユーモアのセンス）には有意差がみられた。参加者別にみれば、総得点にポジティブな変化を示す者もある一方、ネガティブな変化を示す者もあり、エンカウンター・グループの効果測定には全面的に有効な測定尺度となりうるかは疑問のままである（福井, 1985 b）。そのために、エンカウンター・グループの効果測定にあきらかに有効である P O I 翻訳版（福井, 1978, 福井・小柳, 1980）と I S A C との関連性をみることは、I S A C が短期間に生じる人格成熟を測定するのに有効かを間接的に示す証拠になりうると思われる。

表1 CORRELATION COEFFICIENT OF POI & ISA

n = 70

	TC	I	SAV	EX	FR	S	SR	SA	NC	SY	A	C	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15						
TC	1.000																																
I	0.489	1.000																															
SAV	0.425	0.840	1.000																														
EX	0.401	0.708	0.559	1.000																													
FR	0.412	0.735	0.555	0.491	1.000																												
S	0.310	0.774	0.702	0.503	0.554	1.000																											
SR	0.584	0.797	0.707	0.484	0.474	0.575	1.000																										
SA	0.373	0.697	0.447	0.436	0.367	0.473	0.558	1.000																									
NC	0.381	0.565	0.550	0.381	0.409	0.281	0.504	0.285	1.000																								
SY	0.307	0.507	0.619	0.520	0.229	0.379	0.349	0.335	0.439	1.000																							
A	0.232	0.695	0.491	0.451	0.689	0.579	0.410	0.465	0.269	0.281	1.000																						
C	0.394	0.792	0.581	0.705	0.652	0.632	0.527	0.550	0.297	0.344	0.666	1.000																					
1	0.255	0.597	0.624	0.344	0.361	0.418	0.575	0.348	0.252	0.334	0.391	0.468	1.000																				
2	0.526	0.431	0.328	0.226	0.226	0.353	0.520	0.496	0.238	0.219	0.097	0.304	0.339	1.000																			
3	0.393	0.579	0.644	0.255	0.329	0.571	0.549	0.334	0.264	0.355	0.427	0.431	0.674	0.418	1.000																		
4	0.233	0.546	0.638	0.196	0.320	0.436	0.454	0.414	0.290	0.359	0.245	0.290	0.562	0.362	0.566	1.000																	
5	0.328	0.500	0.484	0.158	0.255	0.459	0.523	0.357	0.199	0.262	0.318	0.340	0.568	0.596	0.589	0.488	1.000																
6	0.451	0.622	0.526	0.323	0.421	0.455	0.578	0.561	0.351	0.560	0.379	0.457	0.483	0.565	0.547	0.503	0.652	1.000															
7	0.243	0.440	0.553	0.242	0.337	0.349	0.335	0.286	0.198	0.433	0.293	0.243	0.419	0.208	0.429	0.618	0.478	0.487	1.000														
8	0.059	0.300	0.371	0.281	0.302	0.187	0.150	0.206	0.059	0.194	0.210	0.253	0.241	-0.113	0.070	0.324	-0.010	0.203	0.428	1.000													
9	0.199	0.207	0.124	0.189	0.063	0.195	0.151	0.351	0.128	0.215	-0.002	0.216	0.120	0.320	0.141	0.360	0.130	0.333	0.294	0.203	1.000												
10	0.340	0.478	0.371	0.209	0.346	0.375	0.415	0.431	0.249	0.217	0.256	0.305	0.398	0.585	0.437	0.611	0.436	0.664	0.389	0.127	0.525	1.000											
11	0.169	0.492	0.376	0.144	0.440	0.499	0.425	0.312	0.081	0.103	0.390	0.383	0.564	0.515	0.620	0.479	0.582	0.523	0.397	0.001	0.263	0.648	1.000										
12	0.396	0.345	0.276	0.235	0.311	0.301	0.295	0.194	0.216	0.183	0.161	0.194	0.290	0.523	0.398	0.309	0.475	0.438	0.340	-0.017	0.264	0.425	0.503	1.000									
13	0.237	0.340	0.387	0.235	0.126	0.276	0.288	0.323	0.211	0.261	0.078	0.097	0.256	0.200	0.320	0.427	0.265	0.437	0.421	0.114	0.243	0.401	0.235	0.259	1.000								
14	0.349	0.593	0.629	0.328	0.416	0.538	0.492	0.409	0.232	0.388	0.312	0.405	0.519	0.276	0.415	0.676	0.530	0.653	0.737	0.413	0.432	0.555	0.489	0.372	0.606	1.000							
15	0.203	0.420	0.443	0.294	0.307	0.389	0.396	0.163	0.255	0.143	0.110	0.283	0.422	0.323	0.480	0.587	0.322	0.479	0.412	0.209	0.335	0.468	0.442	0.297	0.334	0.485	1.000						

方 法

筆者の昭和60年度前期「青年心理学」受講者で6月29日(土)2限と7月1日(月)2限に出席していた者に施行したなかから記入の完全な3回生を回収後選んだ。全員ISAC改訂V版とPOI翻訳版を同時に記入し、出席していた中学校課程甲・乙クラスと特音課程の3回生で記入の完全な者は男子18名、女子52名、計70名であった。ISAC75項目とPOI150項目の回答をそれぞれパンチしてコンピューターで採点し、各尺度毎の得点を算出した。さらにPOI12尺度とISAC15尺度の得点からピアソンの相関係数を求めた。

結果と考察

表1はPOIの12尺度とISACの15尺度間の相関係数を示すマトリックスである。自由度 ($n=70-2$) では、相関係数の有意性検定図で見れば、危険率5%では0.235以上の相関値が有意であり、1%水準では0.305以上、0.1%水準では0.385以上の相関値が有意になる。

POIの12尺度間にはかなり高い相関がみられ、TC (Time Competent) 尺度とA (Acceptance of Aggression) 尺度、およびFR (Feeling Reactivity) 尺度とSY (Synergy) 尺度の間のみ相関が認められず、他の尺度との間には全て5%以下の危険率で相関があり、 $12 \times 11 \div 2 = 66$ の相関値中0.1%以下の危険率で有意差のある相関値は49個(74%)、1%の危険率で有意差のあるもの10個(15%)、5%の危険率で有意差のあるもの5個(8%)、計63個、計97%が5%以下の危険率で有意な相関値を示している。しかしながらISACの15尺度間には、他の尺度との間にほとんど相関のみられない尺度がある。それは尺度8(至高経験に対する資質)が尺度1(有効な現実の知覚)、尺度4(課題中心)、尺度14(創造力)の3尺度以外の他の11尺度間に相関がみられないということである。その他に尺度9(共同社会的感情)が尺度1、尺度3(自発性)、尺度5(分離と離脱)との間に、および尺度2(受容)が尺度7(新鮮な鑑賞力)、尺度8、尺度13(刺の無いユーモアのセンス)との間にはそれぞれ相関が認められない。ただし、尺度8はPOIのI, SAV, EX, FR, Cとは相関があり、尺度9はSAと、尺度2はPOIの同様の内容のSAとは高い相関がみられる。

上記のことは、POIが翻訳版であっても、原版が標準化の手続きを経た質問紙であり、各尺度の因子の妥当性が検討されており、また、全尺度が自己実現という人格特性を一元的に測定している質問紙としての保障があるから当然のことと思われる。このことはPOIがたとえ日本版として改めて標準化の手続きをとっていない翻訳版であっても自己実現の変化が測定できるということを暗に保障しているといえる(福井, 1978, 1979, 1980, 福井・小柳, 1980)

それに比してISACは1尺度5項目で15の尺度を設け、計75項目という項目数を変更しないで、各尺度内での項目間の相互関係から因子の妥当性を求めて質問紙を作成してきたので、各尺度がそれぞれの尺度内容についての測定をしても、尺度間の関連が未検討であるため、そのうえ、75項目にわたる全項目が、まだ自己実現という一元的な因子で説明できるまで十分な項目吟味ができあがっていないことを示している。

次に、本論の目的であるPOIとISACの各尺度間の相関であるが、POI12尺度、I

SAC 15尺度間計 $12 \times 15 = 180$ 個の相関係数のうち、5%の危険率の範囲内で有意な相関係数は133個あり、全体の74%に相関がみられる。これはPOIとISACには自己実現の測度としてかなり共通した面を持っていることを示している。しかし、残りの47個(26%)すなわち、全体の約 $\frac{1}{4}$ には相互に関連のみられないところがあり、相関がない尺度をみると、ISACの尺度9(共同社会的感情)がPOIの12尺度中SA(Self-Acceptance)以外の11個の尺度との間に相関がない。それと尺度8(至高経験に対する資質)がTC(Time Competent)尺度、S(Spontaneity)尺度、SR(Self-Regard)尺度、SA(Self-Acceptance)尺度、NC(Nature of Man)尺度、SY(Synergy)尺度、A(Acceptance of Aggression)尺度との間に相関がない。

また、POIのEX(Existentiality)尺度、NC尺度、SY尺度、A尺度の4尺度はISACの15尺度中6~8尺度間、すなわち約半数近い尺度との間に相関がない。しかし、前述のISACの尺度9を除いて、I(Inner Directed)尺度、SAV(Self-Actualizing Value)尺度はISACの14個の尺度間に5%以下の危険率で相関が全てあり、0.1%の危険率でも9~11個の尺度に相関があるという高い相関値を示している。さらに、S(Spontaneity)尺度とSR(Self-Regard)尺度はISACの尺度9と尺度8を除いた13個の尺度間に5%以下の危険率で相関がみられる。

特にPOIのSAV尺度はマスローの自己実現的人間の性格特徴に基づいて作成された尺度であり、この尺度とISACの尺度間に大いに相関がみられることは、POIのSAV尺度とISACの各尺度が同種の自己実現を測定する尺度であることを示している。SAV尺度と同様にI尺度(リースマンの内部指向型人間の性格特徴に基づいて作成された尺度である)もISACの各尺度と相関が高いことは興味のあることで、POIのSAV尺度とI尺度間に0.840という最大の相関値を示していることからその関連の深さが察せられる。

これだけの資料からは、サンプルが特定の学部・課程の学生であることからいっても、単純に結論づけることは避けるべきだが、大まかにいって、ISACはPOIとかなり類似した人格特徴を測定しているとみてよいが、ISACの尺度9(共同社会的感情)については、POIの各尺度との間に相関がないことと、ISACの尺度8(至高経験に対する資質)がISACの各尺度間とにほとんど相関のみられる尺度がないことから、今までの項目レベルの妥当性の検討から、尺度間の関連性について検討を進めねばならないことを示唆している。

その際に、ISACの各尺度をPOIの各尺度と相関させ、短期間の自己実現の変化の測度としても有効な尺度を具備するよう、ISACをよりPOIの尺度中的人格変化に鋭敏な尺度に近づけるよう改変すべきか、それとも、POIとは多少異なる自己実現の側面をみる尺度を備えたマスローの述べている自己実現的人間の性格特徴を調べるに役立つ測度とすべきか、あるいは両方の測定に耐えうる尺度構成が可能かを追求する必要があるということを経後の課題としているようである。

参考文献

- Banet, A. G. Jr. (1976) Inventory of Self-Actualizing Characteristics. (ISAC) in Pfeiffer, J. W. & Jones, J. E. ed. *The 1976 Annual Handbook for Group Facilitators*. University Associates.

自己実現的性格調査票 (ISAC) と自己実現尺度 (POI) との関連について

- 福井康之 (1978) 自己実現尺度にみるエンカウンター・グループ経験の効果 愛媛大学教育学部紀要 第 I 部 教育科学 第24巻 71-80.
- 福井康之 (1979) 教員養成教育のカリキュラムの一案としての人格成熟促進プログラムによる授業の効果とその検討——P O I (自己実現尺度) による効果測定を手がかりにして 教科教育の体系的研究12 愛媛大学教育学部 21-37.
- 福井康之 (1980) 教員養成教育のカリキュラムの一案としての人格成熟促進プログラムによる授業の効果とその検討 (2) 教科教育の体系的研究13 愛媛大学教育学部 27-42.
- 福井康之 (1984) 自己実現的性格調査票 (I S A C) の作成 (1) 愛媛大学教育学部紀要 第 I 部 教育科学 第30巻 35-57.
- 福井康之 (1985 a) 自己実現的性格調査票 (I S A C) の作成 (2) 愛媛大学教育学部紀要 第 I 部 教育科学 第31巻 1-25.
- 福井康之 (1985 b) I S A C からみたグループ参加メンバーの特徴 第18回学生相談研究会議 学生相談三河シンポジウム報告書 15-16.
- 福井康之・小柳晴生 (1980) エンカウンター・グループ経験の効果の測定について 相談学研究 13, 1-8.
- Shostrom, E. L. (1966) *Manual for the Personal Orientation Inventory for the measurement of self-actualization*. San Diego, Calif. Educational and Industrial Testing Service.